

行事案内

財団行事の詳細はホームページ等でお知らせします。

30周年記念事業のお知らせ

パネル展示会・ワークショップ

内容：かながわ考古学財団の歴史やこれまでの業績、最新の調査情報なども含めパネル展示、トピックとなる出土遺物の展示やどなたにも無料で参加していただけるワークショップを開催します。

日時・会場 ① 2023(令和5)年8月18日(金)～8月20日(日)10:00～18:00
新都市プラザ(横浜そごう地下2階 正面入り口前)
② 2023(令和5)年9月21日(木)～9月24日(日)11:00～18:00
センタープラザ・シビルプラザ(横浜そごう9階)

アクセス：横浜駅東口 徒歩5分

シンポジウム「小田原北条氏の境目の城(仮)」

内容：かながわ考古学財団で発掘を行ない、報告書を取りまとめた河村新城を取り上げ、小田原北条氏の境目の城をテーマにシンポジウム、討論会などを行ないます。
中井均先生(滋賀県立大学名誉教授)の記念講演や山城ガールむつみさんによるイベント講演も予定されています。

日時：2023(令和5)年10月21日(土)10:00～17:00
会場：相模女子大学グリーンホール 大ホール(相模原市南区相模大野4-4-1)
申込：事前申込制を予定
アクセス：小田急線「相模大野」駅北口より徒歩10分程度

公開セミナー

「ようこそ縄文の森へ～自然科学と考古学から探る伊勢原の埋没林～(仮)」

内容：西富岡・向畑遺跡で発見された縄文時代の埋没林を題材として、考古学のみならず、様々な自然科学分野の専門家と共に埋没林の検討を行ない、縄文時代の自然環境などを探ります。

日時：2023(令和5)年12月9日(土)10:00～16:30
会場：伊勢原市文化会館(伊勢原市田中348)
申込：事前申込制を予定
アクセス：小田急小田原線「伊勢原」駅北口より徒歩15～20分 伊勢原市役所となり

その他普及事業のお知らせ

夏休み体験発掘

内容：中学生・高校生を対象として、実際に調査現場に出て、遺跡発掘体験や出土品整理体験を行なってもらいます。
日時：2023(令和5)年8月7日(月)・8日(火) 9:45～16:00 (どちらか1日)
会場：伊勢原市 上粕屋・秋山上遺跡(伊勢原市上粕屋1483)
申込：各日10名程度(応募者多数の時は抽選)財団HPやメールからご応募下さい。〆切りは7月15日消印有効とします。
アクセス：小田急小田原線「伊勢原」駅北口より神奈中バス「大山ケーブル行き」などに乗車「石倉橋」下車徒歩5分の発掘調査事務所に集合

※ 各行事の詳細は財団HPを確認して下さい



お問い合わせ

(公財)かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1
E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-252-8689 FAX: 045-261-8162



発掘帖バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

考古学財団発掘帖

No.39 2023(令和5年第1号)
令和5年6月30日発行

編集・発行：(公財)かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1

TEL: 045-252-8689 FAX: 045-261-8162
ホームページ: <https://www.kaf.or.jp>
Facebook: <https://www.facebook.com/kanagawakoukogakuzaidan/>
Twitter: https://twitter.com/kouko_kanagawa



はっくつちょう
考古学財団 発掘帖 No.39
公益財団法人かながわ考古学財団情報誌 2023(令和5)年第1号

はっくつちょう
考古学財団 発掘帖 No.39
公益財団法人かながわ考古学財団情報誌 2023(令和5)年第1号



出土した尖頭器と尖頭器の未製品

旧石器時代の石器製作跡



石蒸し料理などに用いられたとみられる礫群

かみはら
ながくほ
上原・長久保遺跡
旧石器時代の文化層が
つぎつぎ発見

上原・長久保遺跡は、綾瀬市に所在し、相模野台地の中央を南流する蓼川上流の右岸にある段丘上に立地しています。最終氷期の寒冷な時期に形成された、後期旧石器時代の遺跡です。関東ローム層の中から旧石器時代人が残した6時期に及ぶ石器製作跡や礫群が見つかりました。長期にわたり何度も旧石器人の野営地に利用され続けた拠点的な遺跡です。発掘調査では、黒曜石や安山岩、凝灰岩で作られたナイフ形石器や尖頭器が多数出土しました。その他、蒸し料理などに使用されたと考えられる礫群や、石囲い炉が発見されています。

上粕屋・秋山遺跡

上原・長久保遺跡

本号で紹介する遺跡

次の見開きの頁は、伊勢原市内で発掘調査を行った縄文時代の成果をご紹介します。

※調査の内容は発掘時点の成果であり、調査の進展及び出土品整理作業において、名称や評価を変更する場合があります。

じょうもん じだい はいせき い こうぐん せきとう そうこうどき どぐう かみかすや あきやまいせき
 《縄文時代の配石遺構群と出土した石刀・双口土器・土偶》上粕屋・秋山遺跡

上粕屋・秋山遺跡は、厚木秦野道路の建設事業に伴って令和4(2022)年6月から発掘調査が実施され、現在も継続しています。調査では近世～旧石器時代の遺構や遺物が多数確認されていますが、今回は縄文時代の成果について紹介します。

縄文時代では後期(約4,000年前)の住居跡や配石遺構群などが多数確認されました。配石遺構群は大きな石を使った遺構で、立った石と横たわった石が並んで直線的につながります。そのため上から見ると、四角形が連続して見えるように石が配置されています。この配石は南北約9m×東西約12mの範囲に及んでいます。秦野市の稲荷木遺跡では、このような配石遺構群の下から、お墓と考えられる遺構が多数確認されました。そのため、配石遺構群はお墓に関わる遺構であると考えられています。

配石遺構群の一部からは、「石刀」が出土しました。石で作られた刀のような形状をしていることから名付けられていますが、詳しい使い方は分かっていません。この石刀は柄頭部と柄部の境目に段差があり、境界がはっきりとしています。また、柄部の背側には浅い溝が確認されます。このような形態的特徴から、東北地方北部で出土する竊内型の石刀と考えられます。似ているものは新潟県や長野県、山梨県などで見つかっていますが、竊内型の特徴をよく備えているものが関東地方で出土することは、とても珍しいです。石材産地についても岩手県南部の粘板岩である可能性が考えられていて、今後のより専門的な分析が必要です。

この他には、同時期の双口土器や土偶が見つかっています。双口土器は2つの口を持つ土器です。遺跡から出土したものは内面が赤く塗られています。土偶は頭部から胴部にかけて残っています。顔は仮面をかぶっているかのような表現が確認できます。



石刀の出土状況



柄部 柄頭部
 大きさ、長さは31.5 cm・厚さ1.5 cm
 柄頭アップ
 柄には浅い溝、柄と柄頭の境界に線刻があります



赤色に塗られた口縁部内面
 双口土器(高さ9.6 cm)
 土器の底面には敷物の圧痕が確認できます



発見された配石遺構 石の下からはお墓と考えられる遺構が発見されます(写真上)
 配石の何本かは立った状態で発見されています(写真右)



土偶の出土状況



正面 側面 背面
 土偶(高さ11.8 cm)

